

平成19年度 京都大学図書館機構 第2回講演会  
「国立国会図書館におけるレファレンスの方法論」

日常のレファレンス業務から情報発信へ(2)  
「テーマ別調べ案内」  
を例として

国立国会図書館 関西館  
文献提供課 参考係  
田中 俊洋

お話しすること

1. はじめに
2. NDLにおける情報発信
3. テーマ別調べ案内
4. おわりに

2

1.はじめに

- インターネット全盛の時代
  - ・情報探索行動の変化
  - ・質問→回答 ⇒ 検索エンジンで検索→検索結果
- さらに「Web2.0」時代を迎えて
  - ・教えてgoo!(OKwave), Yahoo!知恵袋, はてな
- 情報爆発
  - ・選別された情報の集合自体が価値を持つ存在に

従来の間接サービス(ツールの整備、事例の蓄積、コレクション構築)が、直接サービスになりうる時代

3

2.NDLにおける情報発信

4

2.NDLにおける情報発信

- パスファインダ系(リンク集含む)  
日常の業務を通じて得た知識・経験をもとに作成  
テーマ別調べ案内 統計資料レファレンスガイド  
アジア情報室HP...
- 主題書誌データベース系  
毎週1回、新着資料を通覧 ⇒ データ採録  
企業・団体リスト情報 参考図書紹介  
近現代日本政治関係人物文献目録...

5

3. テーマ別調べ案内

3.1 概要

- NDL職員のノウハウを公開したパスファインダ
- 1テーマにつき1ページ
- 現在、約700テーマ

ページ  
構成例

「〇〇」について調べるには

- ・主要な資料/情報源の紹介
- ・OPAC検索のコツ
- ・無料データベースの紹介
- ・リンク集(文献本文へのリンクも)

6

テーマ別調べ案内

テーマごと、あるいは各種所蔵の特色ある資料群、や、関連する機関の紹介などを行っています。

全文検索: [検索]

テーマ一覧

- 政治・法律・行政
- 経済・産業
- 社会・労働・教育
- 歴史・地理・哲学・宗教
- 芸術・言語・文学
- 科学技術
- 宇宙一般

特色ある資料群

- 法政資料
- 経済資料
- 社会資料
- 歴史地理資料
- 芸術言語文学資料
- 科学技術資料
- 宇宙一般資料
- アジア関係資料
- 国際関係資料
- 国際機関資料
- 憲政資料
- 労働資料
- 言語資料
- 文学資料
- 科学技術関係資料

新着文庫一覧 (2007/07/31)

科学技術

※毎月1回更新

7

テーマ別調べ案内

本文の例

タイトル: 気温の変化をインターネットで調べる

最終更新日: 2007-04-05

読み: きおんのへんかをインターネットでしらべる

分類: 科学技術

本文:

地球温暖化や気候変動がグローバルな問題として、多くの国々で注目を集めています。ここでは、日本および世界の特定地域における気温の変化を無料で検索・閲覧できる公的機関のWebサイトをご紹介します。

★ NASA GISS Surface Temperature Analysis (GISTEMP)

アメリカ航空宇宙局 (NASA) のゴダード宇宙学研究所 (Goddard Institute for Space Studies) が提供するデータベースです。世界各地へ移動後の画面で「国」を選択すると、下部の地図が表示されます。

多数のハイパーリンク (文献本文, 他機関etc.)

8

テーマ別調べ案内

科学技術

ホットトピックス 文献検索から入手まで NEW 医療・医学 NEW 性 環境問題 NEW 気象・気候 生物学・農学 災害・事故 地理学 交通・宇宙工学 エレクトロニクス IT 化学・化学工業 建築 技術基礎 その他 所蔵調査・所蔵機関調査 文献検索ノウハウ集 登録誌 テクニカルレポート データ集

ホットトピックス 文献検索から入手まで

- 0型肝臓について調べる NEW
- トビーンクについて調べる NEW
- 2010年オリンピックについて調べる
- 気分障害(鬱病)について調べる
- 複製時憲時局図録について調べる

ナノテク産業の調べ方

- ナノテク産業について調べるには NEW
- ナノテク産業に関する基礎的知識を得るための資料 NEW
- ナノテク産業に関する主要統計資料 NEW
- ナノテク産業に関する主要名義類 NEW
- ナノテク産業に関する主要調査・レポート類 NEW
- ナノテク産業に関する主要専門雑誌 NEW
- ナノテク産業に関する主要インターネット情報源 NEW

【経済・産業】 産業情報や市場動向、統計の調べ方に重点

【科学技術】 時事テーマを積極的に採用

9

3. テーマ別調べ案内

3.2 主な効果

- 所蔵資料の利用促進
  - ・発見されなければ持ち腐れ
- サービスの地域格差を埋める
  - ・いつでもどこでも
- サービスの平準化と効率化
  - ・NDL職員にとっても不可欠なツール
  - ・レファレンスの「防波堤」としての側面
- サービスレベルの底上げ
  - ・作成の経験が次のレファレンスに生きてくる
- 思わぬ効果も

10

3. テーマ別調べ案内

3.3 作成プロセスの概要

- もともとは職員どうしの知識共有手段から発展
  - ・以前は「京大式カード」を使用
  - ・1つの事柄につき1枚のカード
  - ・「記憶するかわりに記録する」
- 蓄積したノウハウを選別・洗練して公開

一般公開 (『テーマ別調べ案内』) 700件

館内共有知識 (『インフォメーションカード』) 1100件

職員の経験やレファレンス事例 無限

11

(写真)「インフォメーションカード」

12

■ (画面)「インフォメーションカード」

インフォメーションカード ●課/分野別一覧 ●五十音一覧 ●DBについて ●ご利用方法

タイトル: (関西) 関西近辺の住宅地図の所蔵

課/分野: 関西館 作成者: 文献提供課参考係

本文: 現在3544文字です(改行文字含む)。  
(注)英数字は半角で入力してください。

関西館では住宅地図は所蔵なし。  
東京館での所蔵や利用については、インフォメーションカードの  
・住宅地図を参照。

近畿圏の主要公共図書館で、関西以外の住宅地図を所蔵している図書館はなし。  
近畿圏は大阪府立中央図書館で所蔵。  
大阪市立図書館、京都市中央図書館は他府県の都市も一部所蔵。  
他の図書館は同一府県内のみ所蔵。

13

■ 3. テーマ別調べ案内

■ 3.4 作成の実際 (ステップ1)

■ 材料集め

レファレンス事例

- ・館内レファレンス掲示板を活用した「原石」の発掘
- ・文書/口頭レファレンス記録のレビュー

課内研修

- ・個人の努力によるところが大きい

時事問題

- ・世情をモニタリング

14

■ 3. テーマ別調べ案内

■ 3.5 作成の実際 (ステップ2)

■ 下準備

個別事例の中に汎用性を見出して「テーマ」化

元になったレファレンス	設定されたテーマ
<i>Fistularia</i> という学名の魚について調べたい	魚類の学名や文献情報をFishBaseで調べる
0時と24時の使い分けは?	日付・時刻の表記

15

■ 3. テーマ別調べ案内

■ 3.5 作成の実際 (ステップ2)

■ 下準備(つづき)

草案作成

- ・付加的な調査を行う
- ・やはり個人の努力によるところが大きい
- ・そのテーマの代表的な参考図書・統計書
- ・有効な検索式や検索語(件名・分類記号)を探す
- ・無料で使える有用な外部情報源はないか
- ・NDL以外で、所蔵の充実した機関はないか

16

■ 3. テーマ別調べ案内

■ 3.5 作成の実際 (ステップ2)

■ 下準備(つづき)

内容のクロスチェックと館内公開

- ・記事の信頼性を担保
- ・各分野に1名、担当者を置いている

→「インフォメーションカード」として館内公開

→いろんな人からアドバイスが得られる

17

■ 3. テーマ別調べ案内

■ 3.6 作成の実際 (ステップ3)

■ 一般公開に向けて

レイアウト/文言の調整

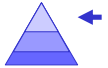
- ・業界用語を排除

リンク許諾取得

再度内容のクロスチェック

- ・情報の信頼性はNDLの強みであり命でもある
- ・係員→係長→課長補佐→課長

18


■ 3. テーマ別調べ案内  
■ 3.7 作成の実際 (ステップ4) 

---

■ 維持管理と評価  
鮮度維持は常日頃の努力で  
・新着資料に目を配る  
・追いつかないことも  
・リンク切れチェックは手動

アクセス数調査  
・傾向分析 ⇒ 新しいテーマの検討材料に

19

■ 3. テーマ別調べ案内  
■ 3.8 課題 

---

■ コンテンツの絶対量の少なさ  
NDLの資源を語りつけていない

■ 維持管理の負担  
宿命的課題ではある 自動化できる部分は自動化

■ 画面の見にくさ  
メリハリのある魅力的なレイアウトを

■ 評価方法の不備  
アクセス数では満足度を測れない

■ 分野や担当課による温度差  
よくも悪くも伝統のスタイルがある

20

■ 3. テーマ別調べ案内  
■ 3.9 今後に向けて

---

■ 業務面の改善  
・「ナレッジマネジメント」の考え方を導入  
・知識の発掘→共有→公開のサイクルを体系化  
・知的資源の「見える化」→「見せる化」

■ サービス面の改善  
・分散しているツール/データベースの整理統合  
・親しみやすいインターフェイス  
・利用者からのフィードバック機能の実現

→「ナレッジ提供サービス」として検討中

21

■ 3. テーマ別調べ案内  
■ 4 おわりに

---

■ 「EBM」になぞらえる

- ・Experience-based ---- 経験知 ⇒ 掘り起こしと共有
- ・Experiment-based --- 事例の記録・蓄積・共有
- ・Economy-based ----- その費用対効果は？
- ・Ethics-based ----- 図書館の使命は？
- ・Evidence-based ----- 根拠に基づくサービスへ

・Effort-based----やっぱり最後は努力次第？

22